

# 紙カルテ・紙伝票・フィルムの 運用の立場から 1

藤井 哲夫

第63回国立病院総合医学会  
(平成21年10月23日 於仙台)

IRYO Vol. 64 No. 6 (411-412) 2010

## 要旨

本邦では病院におけるIT化を推進するための政策に乏しい。その中で、平成21年4月より画像管理加算が新設された。これまでのデジタル加算は役割を終え消え去ったが、おかげで、多くの病院のX線フィルムはデジタルへ移行することができた。さらに画像管理加算はX線フィルム診断から、モニター診断へと導くものである。東京病院のように少ない予算でいかにIT化による利便を、患者と病院が、ともに享受できるか模索しているところである。

キーワード 画像管理加算, モニター診断

## はじめに

平成21年4月より、画像管理加算が新設された。また、今までのデジタル加算は平成22年3月で廃止される。画像管理加算取得のために電子保存、画像配信へ向かわせる政策である。東京病院（以下、当院）では平成15年4月より、画像管理通信システム（Picture Archiving and Communication System：PACS）が稼働しているが、画像配信のインフラは整備されていない。平成21年、医事会計システム更新にあたり、予算を計上し、医療情報システム（Hospital Information System：HIS）、放射線部門システム（Radiology Information System：RIS）などネットワークのインフラ整備も含め計画内である。進捗の状況とそこでの問題点について考察する。

## 現 状

紙カルテ・紙伝票・フィルムの運用  
当院では、平成15年4月より先行してPACSが稼働している。画像の配信はされていないが、PACSの稼働以降、放射線科内のすべてのデジタル画像がコンピュータ内にデータ保存されているため、すぐに画像配信を開始しても過去画像参照について、診療には問題はないと思われる。

## 現状での問題点

ご存知のように、紙カルテ・紙伝票・フィルムは、保管のための場所をとる。また、院内での運用においては出し入れの作業に膨大な人手がかかり、診断

国立病院機構東京病院 放射線科

(平成22年2月4日受付, 平成22年6月11日受理)

The Point of View of Clinical Practicing Using Paper-based Medical Records/Vouchers and Film 1  
Tetsuo Fujii, NHO Tokyo National Hospital

Key Words: the image management addition, a monitor diagnosis

表1 東京病院におけるフィルムレス運用による経営効果試算表

■参考：20年春法改正による収益変化 ※CRは単純撮影で計算 ※フィルム診断体制のCR月額は経過措置期間値

	件/日	件/月	件/年	フィルム診断体制継続			PACSを導入			収益比較 ※CR月額は経過措置期間値		
				月収益	年収益	5年収益	月収益	年収益	5年収益	月差額	初年差額	5年差額
CR (単純)	165	3,630	43,560	¥544,500	¥6,534,000	¥6,534,000	¥2,178,000	¥26,136,000	¥130,680,000	¥1,633,500	¥19,602,000	¥124,146,000
CT	42	924	11,088	¥554,400	¥6,652,800	¥33,264,000	¥1,108,800	¥13,305,600	¥66,528,000	¥554,400	¥6,652,800	¥33,264,000
MRI	12	264	3,168	¥158,400	¥1,900,800	¥9,504,000	¥316,800	¥3,801,600	¥19,008,000	¥158,400	¥1,900,800	¥9,504,000
特殊	1	22	264	¥3,300	¥39,600	¥39,600	¥14,080	¥168,960	¥844,800	¥10,780	¥129,360	¥805,200
造影剤使用	3	66	792	¥9,900	¥118,800	¥118,800	¥47,520	¥570,240	¥2,851,200	¥37,620	¥451,440	¥2,732,400
乳房	1	22	264	¥3,300	¥39,600	¥39,600	¥13,200	¥158,400	¥792,000	¥9,900	¥118,800	¥752,400
計				¥1,273,800	¥15,285,600	¥49,500,000	¥3,678,400	¥44,140,800	¥220,704,000	¥2,404,600	¥28,855,200	¥171,204,000

に必要な情報が手元にそろうまでに時間がかかる。さらにデータの共有はできず、常に紛失するリスクをとまなっている。IT化によりこれらの問題がほとんど解決されると期待している。また、画像管理加算の取得により増収につながり、さらには有形無形の恩恵がある。

### 当院の概況

当院はベッド数560床（一般460床，結核100床）の中規模施設であり，1日当たりの外来患者数はおよそ430人。各モダリティの内訳は単純撮影3,630/月，CT924件/月，MRI264件/月，特殊22件/月，造影剤使用66件/月，乳房22件/月である。当院においてフィルムレス運用へと移行した場合の経営効果試算を表1に示す。

画像管理加算による増収は4,414万円/年となった。当院の放射線科の業績は，多列検出番CT (Multidetector Computed Tomography : MDCT) の導入などにより徐々に増加傾向にあり，さらに増収が見込まれる。

### 東京病院の HIS・RIS への進捗状況

平成19年，医事コンピュータのリース更新にともない HIS・RIS 看護支援システムなどを含む要求書作成を行った。当時の予算は6,000万円弱/年×5年であった。平成20年，医事コンピュータのみ共同入札に参加し導入が決定し，平成21年9月10日 HIS・RIS 入札公告，11月9日開札予定，平成22年3月稼

働開始予定のはずであった。平成21年11月の入札には1社のみが応札したが，入札額と当院の予算とでは倍の開きがあった。事務方もかなり厳しく交渉を行ったが，折り合わず流れてしまった。その後，要求書を再検討し公告のやり直しを図ることになった。平成21年12月再公告し，平成22年3月開札の予定である。マルチベンダーの場合，通常は落札した販売会社（電子カルテ，HISのメーカー）がメインとなり，その他のベンダーと交渉することになるが，全体の予算が少ないとRISは削除対象となることがある。RISを削除すると，HISとモダリティが繋がらず業務が煩雑化し，また，手入力によるため間違いがおこりやすくなり，業務面と安全面から問題である。

### ま と め

画像管理加算の新設により放射線画像情報はPACS化，フィルムレス化の方向に進むことが明確となっている。しかし，国立病院機構の中でも画像管理加算を取っている病院はまだそう多くはない。当院でも紙カルテ・紙伝票・フィルムの運用からの脱却を図ろうとしている。画像管理加算でどのくらい増収になるのか，どのようなメリットがあるのか，また，低予算のなかで何をすればよいシステムを構築できるかを模索している。要求書を再検討するなかで，放射線科としてできることは，できるだけアンテナを伸ばし，なるべく低価格で要求書の希望に沿うRIS販売会社を探し，入札したメインの販売会社に情報提供していくことだと思われる。